



映画

12月1日は映画の日です。明治30年(1897年)実業家 稲畑勝太郎が、パリで発明されたばかりの映画(シネマトグラフ)を日本へ持ち帰り、京都において初めて映画の試写実験に成功しました。映画の日本上陸は、単にヨーロッパの文化や最新技術を日本に伝えただけでなく、人・もの・事物を記録し伝える映像メディアの始まりであり、新しい娯楽・芸術産業の始まりでもありました。

現在、世界の映画事情はどうか見てみましょう。年間にどれくらい映画が製作されているかベスト10をみると、意外にもインドが1288本と一番多く、次いでアメリカ694本、中国475本、日本448本となっています。(図1)

また、その国々の1人当たりの年間入場回数は、図2のようになっています。

図1 映画製作本数

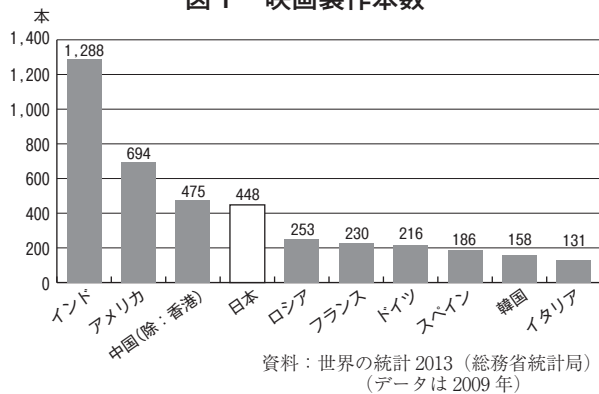
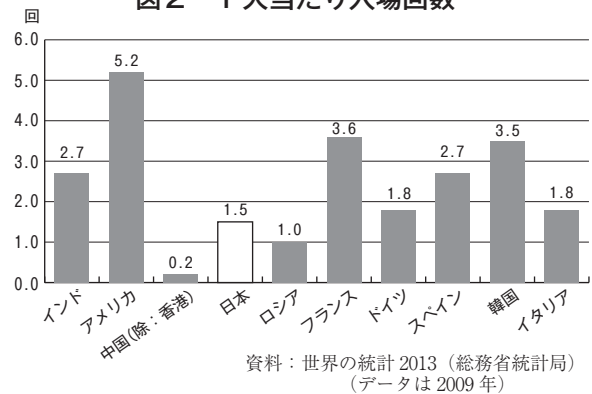
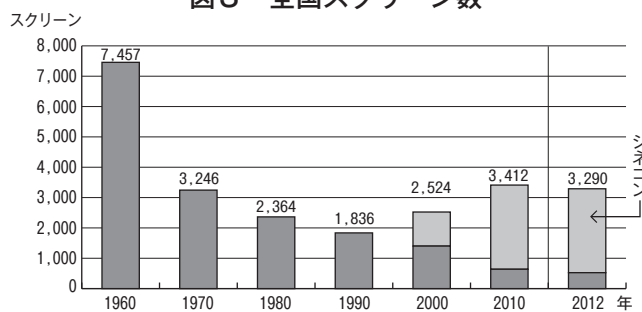


図2 1人当たり入場回数



では次に、日本での映画館のスクリーン数はどうでしょうか。1960年から10年きざみで見ると、1960年の7457から急激に減少し、その後も年々減少傾向で、1990年には1836と30年前の約4分の1に落ち込みました。その後少しずつですが増えており、2012年には3290となっています。また、2000年からは、5スクリーン以上集積したシネコンと呼ばれる映画館の伸びが顕著となっています。(図3)

図3 全国スクリーン数



資料：日本映画産業統計
(一般社団法人 日本映画製作者連盟)



最近では、映画館に行かずDVDなどで家で映画を見る人も増えていますが、映画館に足を運び大画面に集中して時を過ごすのもいいものです。